

週間火山概況（平成 29 年 6 月 2 日～ 6 月 8 日）

【火山現象に関する警報等の発表状況】

7 日に草津白根山に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを 2（火口周辺規制）から 1（活火山であることに留意）に引き下げました。その他の火山については、噴火に関する予報警報事項（警戒が必要な事項）に変更はありません。

表 1 6 月 8 日現在の火山現象に関する警報等の発表状況

特別警報・ 警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード	該当火山
火口周辺警報	レベル 3（入山規制）	桜島、口永良部島
	入山危険	西之島
	レベル 2（火口周辺規制）	浅間山、御嶽山、霧島山（えびの高原（硫黄山） 周辺）、諏訪之瀬島
	火口周辺危険	硫黄島
噴火警報(周辺海域)	周辺海域警戒	ベヨネース列岩、福德岡ノ場
噴火予報	レベル 1（活火山であることに留意）	アトサヌプリ、雌阿寒岳、十勝岳、樽前山、倶多楽、有珠山、北海道駒ヶ岳、恵山、岩木山、秋田焼山、岩手山、秋田駒ヶ岳、蔵王山、吾妻山、安達太良山、磐梯山、那須岳、日光白根山、草津白根山、新潟焼山、焼岳、白山、富士山、箱根山、伊豆東部火山群、伊豆大島、三宅島、鶴見岳・伽藍岳、九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山(新燃岳)、霧島山(御鉢)、薩摩硫黄島
	活火山であることに留意	上記以外の活火山

印のついた火山は火山現象に関する海上警報も発表中。



図 1 火山現象に関する警報を発表中の火山（6 月 8 日現在）

【警報発表中の火山の活動状況及び警報事項】

浅間山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）〕

山頂直下のごく浅い所を震源とする火山性地震の活動は、2015年4月頃から高まった状態で経過しています（図2）。山頂の南南西にある塩野山の傾斜計¹⁾では、2016年12月頃から北または北西上がりのわずかな変化が観測されています。国土地理院のGNSS²⁾連続観測によると、浅間山を南北に挟む基線で2016年秋頃からみられた小さな伸びはほぼ停止しています。

2日に実施した現地調査では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量³⁾は1日あたり900トン（前回5月16日、1,400トン）と多い状態でした。山頂火口では、2016年12月末頃から高感度の監視カメラで確認できる程度の微弱な火映⁴⁾が時々観測されています。

火山活動はやや活発な状態で経過しています。今後も火口周辺に影響を及ぼす小規模な噴火が発生する可能性があるため、山頂火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石⁵⁾に警戒してください。登山者等は地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。また風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石⁵⁾が遠方まで風に流されて降るため注意してください。

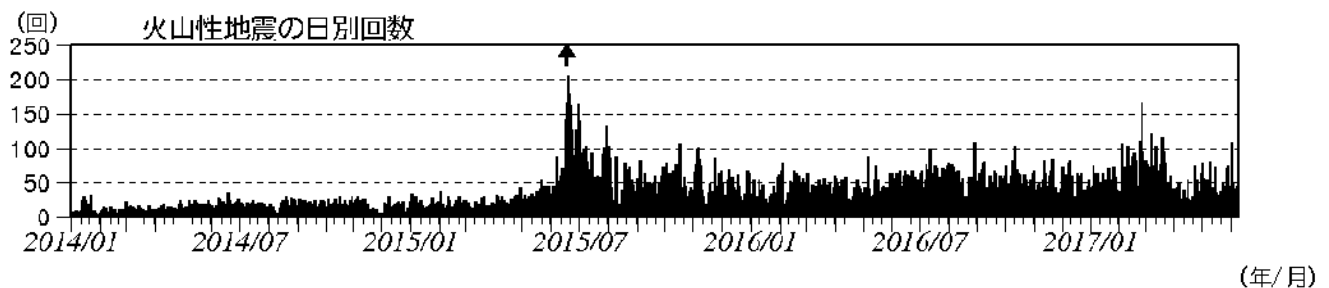


図2 浅間山 火山性地震の日別回数（2014年1月1日～2017年6月8日）
（矢印はごく小規模な噴火を示す）

御嶽山〔火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）〕

山頂火口からの噴煙は白色で、火口縁上概ね400m以下で経過しています。

山頂直下の地震活動は、回数は少ないながらも継続しています。

GNSS連続観測によると、2014年10月以降、山体付近の収縮によると考えられる縮みの傾向がみられています。

2014年10月以降噴火の発生はなく、火山活動は緩やかな低下傾向が続いていますが、山頂火口の噴煙活動や地震活動は続いているため、今後も小規模な噴火が発生する可能性があります。火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。また風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るため注意してください。

ベヨネース列岩〔噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報〕

5日に第三管区海上保安本部が実施した上空からの観測では、変色水や気泡は観測されませんでした。

海上保安庁、第三管区海上保安本部によるこれまでの観測では、明神礁付近では火山活動によるとみられる変色水や気泡が時々観測されるなど、活動は活発な状態が続いています。今後、小規模な海底噴火が発生する可能性がありますので、明神礁付近及び周辺海域では海底噴火に警戒してください。また、周辺海域では海底噴火による浮遊物（軽石等）に注意してください。

西之島〔火口周辺警報（入山危険）及び火山現象に関する海上警報〕

西之島では、活発な噴火活動が続いています。

5月25日から27日かけて実施した海上からの観測では、活発な噴火活動が継続していました。火砕丘北側山腹からの溶岩流は、島の南西から南にかけての海岸から海に流れ込んでいました。また、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は1日あたり500トンで、前回の噴火活動中の2015年10月に実施した観測値と同程度でした。

3日に第三管区海上保安本部が実施した上空からの観測では、溶岩流が島の南西岸から白色噴気を伴いながら海に流れ込んでおり、周辺に茶褐色から黄緑色の変色水域が分布していました。

今後も噴火が継続する可能性がありますので、火口から概ね1.5kmの範囲では噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

いおうとう

硫黄島〔火口周辺警報（火口周辺危険）及び火山現象に関する海上警報〕

火山性地震は、やや少ない状態で経過しています。火山性微動は観測されていません。

GNSS連続観測によると、地殻変動は長期的に隆起及び停滞を繰り返しています。最近では、2017年1月頃から隆起速度がやや上がった状態が続いています。

監視カメラでは特段の変化は認められません。

硫黄島の島内は全体に地温が高く、多くの噴気地帯や噴気孔があり、過去には各所で小規模な噴火が発生しています。

火山活動はやや活発な状態で経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されますので、以前に小規模な噴火が発生した地点（ミリオンダラーホール（旧噴火口）等）及びその周辺では引き続き噴火に警戒してください。

ふくとくあかのば

福岡ノ場〔噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報〕

海上保安庁、第三管区海上保安本部、海上自衛隊及び気象庁によるこれまでの観測によると、福岡ノ場付近の海面には長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されるなど、活動はやや活発な状態で経過しています。今後も小規模な海底噴火が発生すると予想されますので、周辺海域では海底噴火に警戒してください。また、周辺海域では海底噴火による浮遊物（軽石等）に注意してください。

きりしまやま

こうげん

いおうやま

しゅうへん

霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）〔火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）〕

えびの高原（硫黄山）周辺では、2015年12月頃から長期的に熱異常域⁶⁾の拡大や噴気量の増加が認められています。こうした中で、2017年4月25日11時頃から硫黄山南西観測点の傾斜計で、硫黄山付近が隆起する傾斜変動がみられています。

2日及び4日に現地調査を実施しました。硫黄山火口周辺では、引き続き明らかに感じる程度の火山ガスの臭気や、活発な噴気活動が認められました。赤外熱映像装置による観測では、硫黄山火口周辺で引き続き熱異常域が認められました。また、4日の現地調査では硫黄山の西南西側にある噴気孔の内部で新たに熱水を確認しました。

監視カメラによる観測では、噴気が一時的に稜線上100mまで上がるなど、活発な噴気活動が続いています。

火山性地震は少ない状態で経過しています。火山性微動は観測されていません。

えびの高原（硫黄山）周辺では、火山活動が高まっており、小規模な噴火が発生するおそれがあります。えびの高原の硫黄山から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では、降灰及び風の影響を受ける小さな噴石（火山れき⁷⁾）に注意してください。

さくらじま

桜島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）〕

桜島では、活発な噴火活動が続いています。

昭和火口では、噴火が7回発生し、このうち1回が爆発的噴火でした。弾道を描いて飛散する大きな噴石が最大で5合目（昭和火口より500m～800m）まで達しました。6日07時56分の噴火では、やや多量以上の噴煙が火口縁上3,200mで雲に入りました。

南岳山頂火口では、4日及び5日にごく小規模な噴火が発生しました。

火山性地震は少ない状態で経過しています。噴火に伴う火山性微動が発生しました。

始良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下のマグマだまりが引き続き膨張する傾向がみられており、今後も噴火活動が継続すると考えられます。昭和火口及び南岳山頂火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流⁸⁾に警戒してください。風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき⁷⁾）が遠方まで風に流されて降るため注意してください。爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。また、降雨時には土石流に注意してください。

くちのえらぶじま

口永良部島〔火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）〕

口永良部島では、噴火は観測されていません。

新岳火口では、白色の噴煙が最高で火口縁上400mまで上がりました。

火山性地震は少ない状態で経過しています。火山性微動は観測されていません。

地殻変動観測では、火山活動に伴う特段の変化は認められません。

5月22日から5月27日にかけて東京大学大学院理学系研究科、京都大学防災研究所、屋久島町及び気象庁が実施した観測では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は1日あたり100～400トン（前回4月30日～5月20日、100～500トン）でした。

新岳火口付近のごく浅い地震の増加が時々みられることや、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量が2014年8月の噴火前よりもやや多い状態で経過していることから、2015年5月29日と同程度の噴火が発生する可能性は低くなっているものの、引き続き噴火の可能性があります。

新岳火口から概ね2kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。向江浜地区から新岳の南西にかけての火口から海岸までの範囲では、火砕流に警戒してください。風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。降雨時には土石流の可能性があるので注意してください。

諏訪之瀬島^{すわのせじま}〔火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）〕

諏訪之瀬島では、噴火は観測されていません。

御岳火口^{あたけ}では、白色の噴煙が最高で火口縁上600mまで上がりました。

同火口では、6日夜間に高感度の監視カメラで火映が観測されました。

火山性地震は少ない状態で経過しています。火山性微動は8日07時頃から16時前にかけて発生しました。

諏訪之瀬島では、長期にわたり噴火を繰り返しています。今後も火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されますので、火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

【噴火予報発表中の火山の活動状況及び予報事項】

草津白根山^{くさつしらねさん}〔噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）〕←7日に噴火警戒レベル2（火口周辺規制）から引下げ

東京工業大学によると、2014年以降、湯釜の湖水に含まれる高温の火山ガス由来の成分の濃度上昇が続き、火山活動が活発な状態であることを示していましたが、2017年に入って低下傾向に転じ、現在もその傾向の続いていることが確認されました。また、火山性地震は少ない状態が続き、地殻変動観測では湯釜付近の収縮傾向がみられています。

これらのことから、山頂火口から1kmの範囲に影響を及ぼす噴火の可能性は低くなったと判断し、6月7日14時00分に噴火予報を発表し、噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）に引き下げました。

湯釜火口及び水釜火口周辺の熱活動の高まった状態は継続しています。引き続き湯釜火口から概ね500mの範囲に影響を及ぼすごく小規模な火山灰等の噴出の可能性がありますので注意してください。また、ところどころで火山ガスの噴出がみられます。周辺の窪地や谷などでは高濃度の火山ガスが滞留することがありますので、注意してください。地元自治体等が行う立入規制等に留意してください。

上記以外の火山では、期間中、火山活動に特段の変化はなく、予報事項に変更はありません。

全国の常時観測火山の観測データは、気象庁ホームページでもご覧になれます。

http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/open-data/data_index.html

- 1) 傾斜計とは、火山活動による山体の傾きを精密に観測する機器です。火山体直下へのマグマの貫入等により変化が観測されることがあります。1μrad（マイクロラジアン）は1km先が1mm上下するような変化量です。
- 2) GNSS（Global Navigation Satellite Systems）とは、GPSをはじめとする衛星測位システム全般を示す呼称です。
- 3) 火口から放出される火山ガスには、マグマに溶けていた水蒸気や二酸化硫黄、硫化水素など様々な成分が含まれており、これらのうち、二酸化硫黄はマグマが浅部へ上昇するとその放出量が増加します。気象庁では、二酸化硫黄の放出量を観測し、火山活動の評価に活用しています。
- 4) 火映とは、赤熱した溶岩や高温のガス等が、噴煙や雲に映って明るく見える現象です。
- 5) 噴石は、その大きさによる風の影響の程度の違いによって到達範囲が大きく異なります。本文中「大きな噴石」とは「風

の影響を受けず弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、「小さな噴石」とはそれより小さく「風に流されて降る小さな噴石」のことです。

- 6) 赤外熱映像装置による。赤外熱映像装置とは、物体が放射する赤外線を検知して温度分布を測定する測器です。熱源から離れた場所から測定することができる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。
- 7) 霧島山・桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現しています。
- 8) 火砕流とは、火山灰や岩塊、火山ガスや空気が一体となって急速に山体を流下する現象です。火砕流の速度は時速数十 km から時速百 km 以上、温度は数百 °C にも達することがあります。

注) 本資料は速報的な内容を含みます。データについては精査により、後日修正することがあります。
詳細については、毎月発表の火山活動解説資料を参照してください。

http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/STOCK/monthly_v-act_doc/monthly_vact.php

表2 火山現象に関する警報等の発表履歴（平成29年6月2日～6月8日）

発表日時	火山名	特別警報・警報・予報	概要
6月7日 14時00分	草津白根山	噴火予報	噴火警戒レベル1（活火山であることに留意）に引下げ
6月2日 04時03分 6月6日 08時05分	桜島	降灰予報（速報）	噴火発生から1時間以内に予想される降灰量分布や小さな噴石の落下範囲を予想
6月2日 04時22分 6月6日 08時25分	桜島	降灰予報（詳細）	噴火発生から6時間先までに予想される降灰量分布や降灰開始時刻を予想
毎日 02時から3時間 毎に8回	霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺） 桜島 口永良部島 諏訪之瀬島	降灰予報（定時）	噴火した場合に予想される、降灰範囲及び小さな噴石の落下範囲を予想

【参考】 噴火警報・予報と噴火警戒レベル等の対応表

噴火警戒レベル対象火山		噴火警戒レベル対象外の火山
噴火警戒レベル（キーワード）	警報・予報	警戒事項等（キーワード）
レベル5（避難）	噴火警報	居住地域嚴重警戒
レベル4（避難準備）		
レベル3（入山規制）	火口周辺警報	入山危険
レベル2（火口周辺規制）		火口周辺危険
レベル1（活火山であることに留意）	噴火予報	活火山であることに留意

海底火山については、噴火警報（周辺海域）（キーワード：周辺海域警戒）と噴火予報（キーワード：活火山であることに留意）で発表します。

印のついた噴火警報は、特別警報に位置づけられています。